

8. 上小用遺跡（第5次調査）

所在地 北巨摩郡白州町鳥原地内

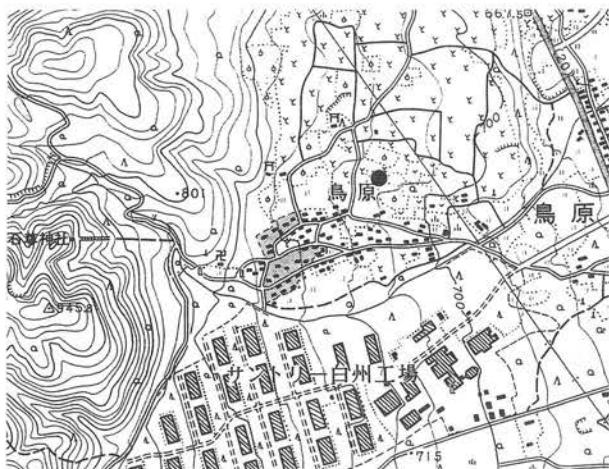
調査原因 畑地帯総合整備事業

調査期間 1999年4月5日～2000年3月31日

調査面積 3,400m²

調査主体 白州町教育委員会

担当者 杉本 充・五味孝広



本遺跡は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳の前山群を構成する巨摩山地東麓に位置し、1kmほど東を北西から南東に流れる釜無川が形成した河岸段丘高位面に立地している。この段丘面の北側と南東側は釜無川の支流に削られ、急な段丘崖となっている。現況は、畑及び遊休桑園である。縄文時代の遺物が、350×800mの範囲に渡り濃密に分布しているため古くから遺跡の存在が知られていた。また、武田信玄の重臣であった馬場美濃守春信が教来石から馬場に改姓するまでの館跡と伝えられている一画があり、堀跡等が良好に残され



TH78 O-9区35号土坑出土ヒスイ大珠



TH78 O-8区1号土坑出土黒曜石（石核・原石）



TH78 N-8区4号土坑遺物出土状況



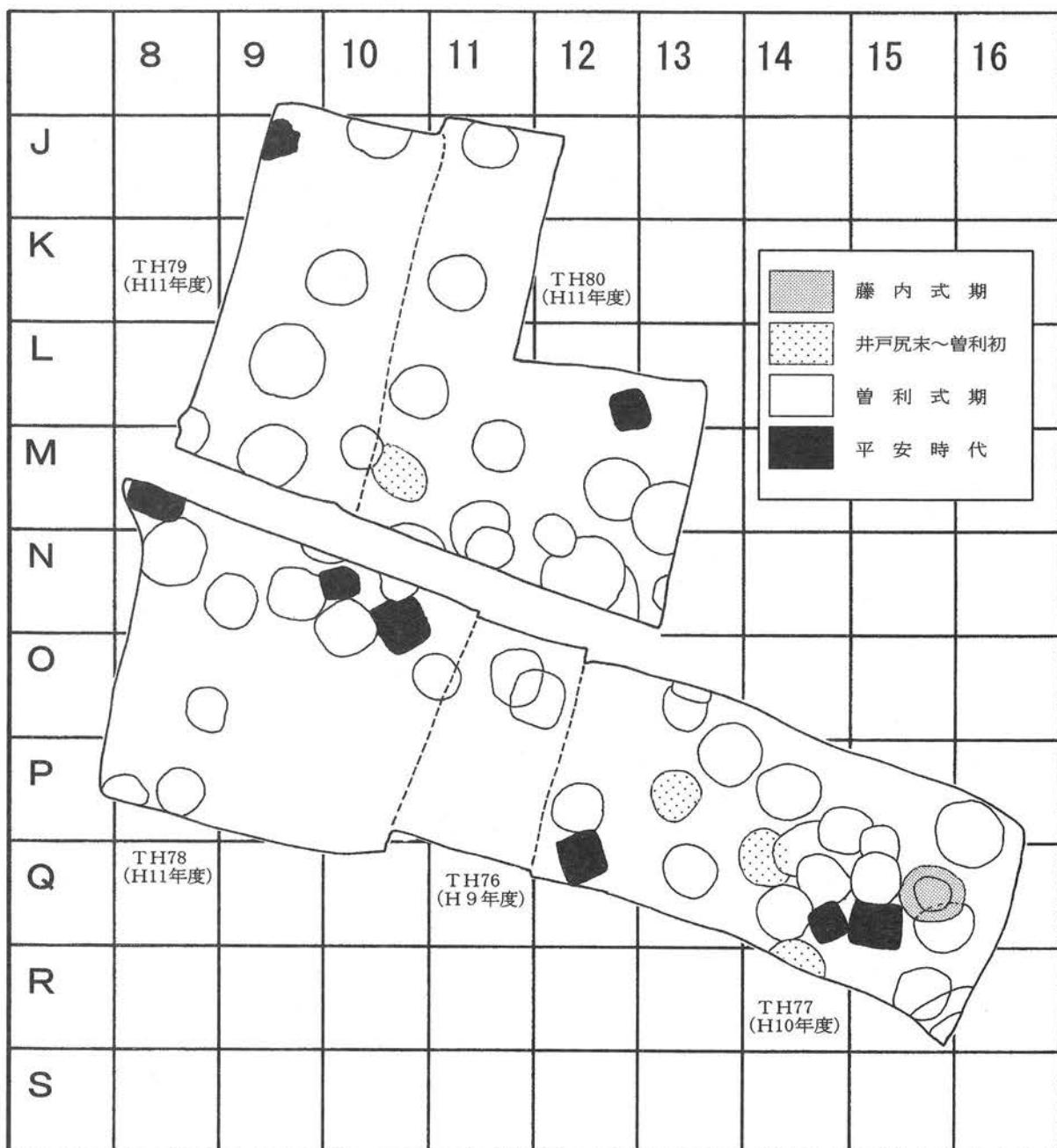
TH79 2号住居址石囲炉



TH79 6号住居址



TH78（前）・TH79（奥）



住居址分布図

ているため保存に向け協議が続けられている。

畠縦に伴う発掘調査は本年度で3年目である。これまでに、縄文時代中期の竪穴住居址56軒・平安時代の竪穴住居址8軒のほか、中世土坑群・地下式坑等が調査された。

住居址の覆土中から水晶片の出土が目立つ。

参考文献

折井 敦 1989 『教来石民部館跡』 白州町教育委員会

折井 敦 1990 『教来石民部館跡』(第2次) 白州町教育委員会